【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】平成18年8月10日(2006.8.10)

【公開番号】特開2001-10304(P2001-10304A)
【公開日】平成13年1月16日(2001.1.16)
【出願番号】特願平11-184017
【国際特許分類】
Ｂ６０Ｂ　35/18　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　19/18　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　35/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６０Ｂ　35/18　A
Ｆ１６Ｃ　19/18
Ｆ１６Ｃ　35/06　A

【手続補正書】
【提出日】平成18年6月28日(2006.6.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
上述の様に構成する車輪支持用ハブユニット１０ａの組立方法は、先ず、前記外輪１３の一端部外周面に形成した円筒面部３７に、上記シールリング１５ａを構成する芯金３４の円筒部３６を外嵌固定する。又、この作業と共に、上記複数個の円すいころ１４ａ、１４ａを第一の保持器２９により、前記ハブ本体１１ａの外周面に形成した第一の内輪軌道１９の周囲に保持する。そして、上記シールリング１５ａを外嵌固定した外輪１３をこのハブ本体１１ａの周囲に進入させる。この進入作業の際、上記シールリング１５ａを構成する弾性材３５ａの内周縁のうち、上記各円すいころ１４ａ、１４ａに整合する部分が直径方向外方に弾性変形して、当該部分の内径が、上記複数個の円すいころ１４ａ、１４ａの底辺側の最小外接円の直径d_{14}より大きくなる。そして、上記複数個の円すいころ１４ａ、１４ａの周囲に第一の外輪軌道２６が位置するまで、上記外輪１３をハブ本体１１ａの周囲に進入させ、上記シールリング１５ａが上記各円すいころ１４ａ、１４ａの周囲を通過し切ると、このシールリング１５ａを構成する弾性材３５ａの内周縁が弾性的に復元する。従って、上記シールリング１５ａと複数個の円すいころ１４ａ、１４ａとの干渉に拘らず、上記弾性材を傷める事なく、上記外輪１３を上記ハブ本体１１ａの周囲に進入させる事ができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
この様にして外輪１３をハブ本体１１ａの周囲に進入させたならば、次いで内輪１２ａを、複数個の円すいころ１４ａ、１４ｂのうちの第二列の円すいころ軸受２２を構成する残部の円すいころ１４ｂ、１４ｂを、第二の保持器３０により第二の内輪軌道２３の周囲に保持した状態で、上記外輪１３の内側に挿入する。この挿入作業に伴って上記内輪１２ａを、上記ハブ本体１１ａの段差面２５にこの内輪１２ａの一端面が当たるまで上記小径

段部２０に外嵌する。そして、図示の例では、この小径段部２０の他端部に形成した雄螺子部３８にナット３９を螺合して、上記内輪１２ａの他端面を抑え付けることにより、この内輪１２ａを固定する。最後に、この内輪１２ａの端部外周面と外輪の端部内周面との間にシール環１６を装着する。尚、図示の例では、上記内輪１２ａの他端部外周面と上記外輪１３の他端部内周面の間は、上記シール環１６で塞ぐ方法を示したが、外輪１３の他端開口を覆う蓋体によって塞ぐ方法等、いずれでも良い。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】符号の説明
【補正方法】変更
【補正の内容】
【符号の説明】
１　複列円すいころ軸受
２　外輪
３　内輪
４　円すいころ
５　外輪軌道
６　内輪軌道
７　保持器
８　組み合わせシールリング
９　空間
１０、１０ａ　車輪支持用ハブユニット
１１、１１ａ　ハブ本体
１２、１２ａ　内輪
１３　外輪
１４ａ、１４ｂ　円すいころ
１５、１５ａ　シールリング
１６　シール環
１７　フランジ
１８　第一列の円すいころ軸受
１９　第一の内輪軌道
２０　小径段部
２１　円筒部
２２　第二列の円すいころ軸受
２３　第二の内輪軌道
２４　かしめ部
２５　段差面
２６　第一の外輪軌道
２７　第二の外輪軌道
２８　取り付け部
２９　第一の保持器
３０　第二の保持器
３１　ポケット
３２　柱部
３３　小鍔部
３４　芯金
３５、３５ａ　弾性材
３６　円筒部
３７　円筒面部
３８　雄螺子部

３９　　ナット
【手続補正４】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図２】

